

施策評価シート (評価対象年度：平成30年度)

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	2 発達支援・障害児支援の充実	② 施策番号	4302
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	2 みんなが健やかで、みんなが助け合うまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	1 子どもと大人が夢や希望を持ち、ともに成長できるまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	2 子育てしやすい環境の整備		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
健康福祉部	保育子育て支援課		

2. 施策の現状把握

[1] 施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	発達障害(身体・知的・行動等)を有する、またはそれが疑われる児童と保護者
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	身体障害や知的障害、発達の遅れまたは疑いのある子どもや、子育てに不安のある保護者に療育や遊びを提供し、児童が持てる力を十分に発揮できるよう支援する。また保護者の育児不安を解消し、子どもの発達特性を理解し適切なかかわりができるよう支援する。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	受給者証の発行件数からも見られるように、支援が必要な子どもの数は年々増加している。

[2] 施策指標及び推移

施策指標(成果指標)	単位	指標とした理由・考え方
① 年間延べ利用者数 計算式:	人	受給者証保有者の利用状況を把握する。
② りんごの広場利用者数 計算式:	人	支援が必要な児童の人数を把握する。
③ 児童発達支援事業利用者数 計算式:	人	支援の必要な児童の人数を把握する。

指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	備考	
① 年間延べ利用者数	人	目標値	4,363	5,015	5,509	5,600	5,600	
		実績値	4,363	5,015	5,509	—	—	
		達成率	100.0%	100.0%	100.0%			
② りんごの広場利用者数	人	目標値	648	486	422	420	420	
		実績値	648	486	422	—	—	
		達成率	100.0%	100.0%	100.0%			
③ 児童発達支援事業利用者数	人	目標値	98	94	79	75	75	
		実績値	98	94	79	—	—	
		達成率	100.0%	100.0%	100.0%			

[3] 施策を構成する事務事業

事務事業名	成果指標					総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化
	指標名	単位	H29実績	H30実績	R1見込	H29実績	H30実績	R1見込	総合評価	今後の方向性	
1 子ども総合支援センター	りんごの広場利用者数	人	486	422	420	74,637	49,713	50,948	A	ア	○
2 障害者通所給付事業	年間延べ利用者数	人	5015	5509	5600	416,937	439,268	442,487	A	イ e	○
3 保育子育て支援事業	入所者数	人	1067	1065	1115	12,783	13,090	20,446	B	イ e	▲
4 保育所事業	入所者数	人	134	119	120	203,587	144,733	148,485	A	ア	
5 認定こども園事業	入所者数	人	168	154	160	253,575	187,535	189,183	A	ア	
6 民間保育所等支援事業	入園者数	人	757	777	1049	1,012,014	1,017,337	990,790	A	ア	
7 児童発達支援事業	児童発達支援事業	人	94	79	75	136,514	157,964	167,566	A	ア	◎
8 家庭児童相談室事業	要保護最終児童者数	人	28	7	10	26,431	36,335	32,717	B	イ a	
計	8					2,136,478	2,045,975	2,042,622			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	発達支援が必要な児童に対し様々なサービスを提供し、子育てに不安を感じている保護者の就労支援やレスパイトケアがなされるよう支援を行い、対象となる児童の適正に応じ、自立した日常生活または社会生活を営めるようにすることで、子育てしやすい環境を整える。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	少子化の流れにあっても、支援を必要とする児童数は増えてきている。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	本市子ども総合支援センター及び各民間事業所において、様々な状況に応じた支援を行い、子どもたちの必要に応じたサービス提供ができています。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	受給者証を所持する児童数が増加しているものの、事業所も年々増加していることから、需要に対し供給量は適正であると考えます。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	支援を必要とする子どもが増加していることから、事業の縮小は難しいと考える。

4. 一次評価(所管課評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
一次評価	B	子ども総合支援センターの改修に伴い、一定児童数の受け入れが可能となったが、それを上回る利用希望があることから、今後の事業展開を考えていく必要がある。	

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	職員の専門知識の向上。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	専門職員(相談支援専門員、公認心理士、社会福祉士)の配置。
中長期的対応 (3~5年をめぐりに取り組む改善案)	子ども総合支援センターを核とした、民間事業所も含めた療育支援体制の確立。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
二次評価	B	事業の利用者が増加している中で、適切にサービスが実施され、施策達成に向け取組が適切に行われている。 事業展開については、利用者増に対する民間事業者との連携や専門性の確保に向けた取組など支援体制の充実に向けた展開を検討されたい。	